



望洋荘便り



第 4 号
平成 16 年
3 月発行

望洋荘に住む人たちを考える（その 1）

社会福祉法人 りんさく福祉会

理事長 須田 滉

年齢を重ねるにつれ、少しずつ知的機能が低下してゆくことは、誰もが避けることができない現実です。そして、痴呆の状態に陥るのをくい止めることもなかなか容易なことではありません。私も、「望洋荘」では、個室化されたユニットケア形式での生活環境の中に、一部の痴呆の進行した方々も入れた入所者 80 名と 35 名の介護職員が共に暮らしております。痴呆の障害の程度に差はあれ、独自の人間としての価値を持つこと、人間として様々なニーズを持っていること、市民として同じ権利を有していることを基本として対応をさせていただいております。お一人お一人に適した対応はどのようなべきかを絶えず年頭に置いて日々介護を心がけております。しかし、残念ながら入所者の方々は、自分の感情をコントロールする能力、社会に適応する能力等が徐々にではあります。減退の傾向にあります。それ故に、私どもは痴呆の進行をも念頭に入れた、ケア・アンドン・ケアを実践せねばならないと認識いたしております。開所以来、最も心を砕いていることは、入所者の方々が最も快適に過ごせる環境作りであります。開所間もないため若干不備な点も見られますが概ね順調に対応が図られていると自負しております。

今回と次回は痴呆の方々が表す症状について少しお話をさせていただきます。症状を大きく 2 つに分類いたしますと『中核症状』と『周辺症状』に分けることが出来ます。今回は『中核症状』についてお話をいたします。『中核症状』は「生きる機能の障害」「人間らしく生きる機能の障害」「自分らしく生きる機能の障害」の 3 つの分野に分けて説明が出来ると思います。「生きる機能の障害」では、人が生きていくうえで重要な、自発性、気力に低下の障害が見られるという事であり、比較初期の段階から生じ、周囲が気づかず、本人のやる気や自発性を損なうことをしたり、おとなしいまま放置すると、何も自分からしようとしない状態が固定されてしまいます。

態が固定されてしまいます。

「人間らしく生きる機能」とは「認知機能」「感情機能」に分けて説明することが出来ます。認知機能とは人間が人間として物を記憶し、周囲との関係の中で自分の立場を判断し、意思表示をしたり、自分の行動を組み立て行動してゆく能力です。認知をするためには、時間が分かるとか、場所が分かるとか、人が分かる等の見当づける力（見当識）が必要になってまいります。この能力が欠落してまいりますと、暮らしていくための座標軸が失われ、普段の行動に次々とミスが生じてきます。気を紛らわせる事柄がないと、見当づけが出来ない不安が頭をもたげ、落ち着きがなくなったり、パニックに陥ったりします。感情機能は説明するまでもなく、喜怒哀楽のような感情を多様に表し、人間性豊かに生きる源であります。この機能に障害が生じますと、それぞれの場面での適切な表現が難しくなって参ります。人が変わったようだと周囲の人が驚きますが、人格が変わったのではなく、感情抑制が利かない状態なのです。

「自分らしく生きる機能の障害」も説明に多くの言は必要ないと思います。ただ単に判断力の欠如ではなく、自分がどうしたいのか、自分の暮らしがどうであつたらいいのかという自分のあり方を見つめる能力が減退してゆくことなのです。痴呆化が進行することは本当に悲しいことです。次回は、『周辺症状』の説明と望洋荘の具体的な取り組みについてお話をしたいと思います。



桃の花（3月の花）

「桃の花」は誰でもが知っていそうで、知らない花ではないでしょうか？

桃の花を置いていると「もう桜が咲いている」とか「きれいな梅だね。色がすこし薄いのかな」と言われる場合が多く、「桃の花」と言い当てる人は少ないようです。

ひな祭り『雛人形』を飾りました。



玄関（事務室のカウンター）に
お雛さまが飾られています。
穏やかなお顔。いいですねえ
♪二人並んですまし顔♪

今月の言葉その③（倫理研究所編標語集から）

成功者は仕事の 好き嫌いをしない

たとえつまらぬように見えることにも誠実に取り組む人を周りがほっとくはずがない。その心も、仕事ぶりも、必ず伝わる。幸福の青い鳥は自らの足下にいるものだ。

“ひな祭り”

女の子の健やかな成長と幸せを願って雛人形を飾り菱餅や桃の花を供えて白酒で祝う行事。

旧暦の3月3日は桃の花が咲く頃ですので『桃の節句』とも呼ばれます。

今から千年くらい前から行われていた三月上巳（じょうし）の節句行事（お祓いをして無病息災を願う）から生まれたもの。平安貴族の女子の間で人形や小さな調度品を並べて遊ぶ『雛（ひいな）遊び』というまごこが行われていましたが、これが結びついて長い年月の間に今のような形になりました。雛祭りとしての歴史は比較的新しく、江戸時代に五節句の一つに定められてからです。

入居者の方から投稿いただきました。

『今は昔』

ワタシらが学校へ入った頃（大正時代の半ばから昭和の初め頃）

四月だったナ、初めての集団生活で泣く子も居た。カバンは布で作って肩掛けだった。ランドセルなんかは買えなかったナ、着る物は赤いネルの腰巻でパンツなんては、はいていなかったし、着物だった。洋服の子もいたけど、いい家の子だった。履物は靴でなく、下駄か雪駄だったよ。弁当は麦飯に梅干の日の丸弁当なんだ。教科書は、ハナ、ハト、マメ、ミノ、カサ、カラカサで始ってた。遊びはねえ、お手玉、おはじき、玉ころがしなんかで暗くなるまで遊んでね。小遣いなんてなかったけど『山神さま』のお祭りには、赤ちゃんから五銭もらって、馬方羊かんが買えたし飴も買えた。祭りは賑やかだったし楽しみだったなあ。

※これは昔の内郷綴町で育った三人の女性より聞きとりまとめたものです。年齢は八十代の三人です。

『望洋荘』豆まきの様子 2月3日



豆まきでは年男、あるいは一家の主人が「福は内、鬼は外」といいながら煎った大豆をまき、みんな自分の年の数だけ豆を食べるとこれから1年病気になるいと言われています。また妊婦のいる家庭ではこの豆を安産のお守りにもします。もともと宮中の行事が一般家庭に普及したものとされますが、最近は大きな神社などで芸能人やスポーツ選手などを招いて豆まき大会をやっているケースも多いようです。

『長老の座りの位置』

須田 混

老人は家の宝と我が国では昔から言われております。今日の文化を築いてきた功労者であります。老人を敬うことは、彼等からの智慧を授かり、己の命に目覚め、活力、気力の充実に繋がります。老人を大切にすると家風が満ちている家は、仕事が栄え、家族が健康であり子供も立派に育つと言われています。

それぞれの家庭の状況で異なりましようが、主人及び長老の居間での座る場所はどうなっているのでしょうか。テレビのある居間のどの場所を占めているのか興味のあるところがあります。又、就寝時や、体調の悪い時にはどの部屋に臥せているのかは、われわれ医者にとっては大きな関心事であります。といいますのは、医療保険制度のもとに、高齢者を含め病人のお宅に医者や看護婦が往診をし、訪問診療、訪問看護が実施されてきました。その折、家に入り部屋に案内されただけで、病人の大切にされている度合いが判断出来たものです。私が往診していた家の老人は幸いなことに皆、相応しい部屋に臥せて居りました。

介護保険制度が実施されている現在、訪問診療、訪問介護等々を利用しようとすれば、まず介護認定訪問調査員が訪れ調査を行います。介護認定に伴って、介護支援専門員（ケアマネージャー）も訪問します。家族以外の人々が出入りすることになります。それぞれのサービス提供者は、高齢者が”家”の中で占める位置を知る必要があります。それは、他人であつても家族の一員としてサービスを提供する必要があるからです。

高齢者の健康すなわち心（精神機能）と身（身体機能）のバランスを図るため、サービスの提供者は今まで以上に細やかな観察力を働かし、仕事に邁進する必要があるのです。

医者の子目―福島民報（健康欄への寄稿文から）

『望洋荘』買い物ツアー IN 平

一月二十九日（木）利用者の方の希望により、平イトーヨーカ堂に行つて来ました。

『満面の笑み』で、一〇〇円ショップでの買い物、そして食堂での昼食など、楽しい一日でした。



『第八十五回いわき寄席』のご案内

柳家 小団治

（やなぎや こだんじ）

本 名

吉田 武脩

生年月日

昭和 19 年 11 月 23

出身地

東京都

特 技

剣道(六段)

スポーツ全般



昭和四十年三月

五代目柳家小さんに入門 前座名「武助」

昭和四十二年三月

中央大学経済学部卒業

昭和四十五年四月

二ツ目昇進 六代目「柳家小団治」を襲名する

昭和五十四年九月

真打昇進

柳家 小団治師匠 独演会

日 時 平成 16 年 3 月 23 日（火）

開演時間 午後 6 時 30 分 入場無料

場 所 いわき市内郷『報徳苑』

主 催 須田 医院

ご家族、お友達お誘い合せの上おいで下さい。

介護老人福祉施設 『望洋荘』
職員紹介④&コメント集



看護師 穂積 一子

『ひとりひとりのニーズに合ったサービス（介護）をする。』という事を目標にこの望洋荘に入社して来ました。時間に追われず、家庭的な雰囲気、自然豊かな環境の中で生活している入居者の方々に親しまれる看護師になれるよう精一杯頑張りますので、皆様どうぞ、お願い致します。



介護士 松崎 弘美

望洋荘のスタッフの一員として、働く機会に恵まれ、すべてが新しい一からのスタートとなり希望と不安の中、若いスタッフと共に人生の先輩である利用者の方々を、より家庭的な、快適な環境の中で生活して頂ける様に、又、精神的安定を図り、一人ひとりのニーズに合った介護が出来る様、私自身も努力し、勉強に励み、知識や技術向上に努め、初心を忘れず共に歩んで行きたいと思致します。



介護士 伊藤 正寿

山と海に囲まれたこの素晴らしい環境で、一緒に美味しい空気を共に出来てとても嬉しく思います。これから利用者の方とたくさん交流を持ち家庭的な雰囲気、楽しい日々を送って頂ける様、日々精進して行きますので、どうぞ御指導よろしくお願い致します。又、至らない点等ありましたら遠慮せずと言ってお下さい。何でも言い合える関係を築ければと思っております。まだまだ未熟者ですが、少しでも利用者のお役に立てるよう日々頑張りますので、何卒お願い致します。



事務員 佐藤 早苗

医療・介護の現場で働く事は初めての経験であり、入社して三ヶ月がまたたく間に経ぎました。事務職として入所者と関わる機会が少な分、自分自身のモットーは常に相手の立場を考えつつ、自分らしさを出しながら業務に徹して行きたいと心がけています。

介護保険一コマ ④

『ケア』

世話、介護、看護、援助

『ケアマネジメント』

対象者の社会生活上での複数のニーズを充足させるために、適切な社会資源と結び手続きの総体。機能としては、アセスメント、ケアプランの作成・実施、フォローアップがその中核である。

『ケアプラン』

心身の状況等に応じて、受けるサービスを組み合わせる計画。なお、最近では、介護保険制度下の居宅サービス計画と施設サービス計画を目差すことに多用される。

編集後記

『望洋荘』便り

平成十六年三月一日発行

発行所 いわき市

平豊間字合磯三十九番地

社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373

FAX (0246) 55-7255